



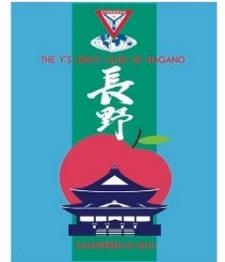
THE SERVICE CLUB FOR THE YMCAs CHARTERED IN 2010

# 長野ワイズメンズクラブ 会報

2025年3月 第169号

THE Y'S MEN'S CLUB OF NAGANO

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS



## 2024~2025年度 主題

長野クラブ会長	(代行) 福島貴和	「出会いの種を育み咲かせる」 Let Our Seeds Bloom
あずさ部長	ピーター・マウントフォード (甲府)	「めあて 望み」
東日本区理事	山田公平 (宇都宮)	「ワイズの方向性を見極める」 Our Future Direction
アジア地域会長	ジョアン・ウォン (香港)	「大きなインパクトを起こそう」 Make a Great Impact
国際会長	A. シャナヴァスカン (インド)	「共により良い世界へ」 Together for a Better World

## 今月の聖句

『わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。』  
 (新約聖書 コリントの信徒への手紙 二 4章18節 ※新共同訳)

## 2025年3月 例会案内

- 日時 2025年3月19日(水) 18:30~20:30
- 会場 レストランやま 380-0834 長野市問御所 1315

例会進行： 会長

- ・開会点鐘
- ・ワイズソング、ワイズの信条
- ・聖書朗読、祈祷
- ・会長あいさつ
- ・ゲスト、ビジター、キャンディデイト紹介 書記
- ・ワイズディナー 食前の祈り： 卓話者：
- ・卓話
- ・諸報告・諸連絡、ハッピーバースデー
- ・ニコニコ献金、会員一言 会計
- ・YMCAの歌
- ・閉会点鐘 会長

## ★★ 巻頭メッセージ ★★

### 『栄村大震災から14年』

3月11日で東日本大震災から14年経ちました。その翌日、3月12日で栄村大震災から14年になりました。大震災で、栄村の農業の中心である稲作が大打撃を受け、魚沼産コシヒカリにも勝るとも劣らないおいしさの栄村米が、数年間は作ることができませんでした。その後、村の皆さんの努力の甲斐あって田んぼが復活し、復興米が収穫できて、長野クラブも「栄村例会」を盛大に開催し、栄村米のごはんを朝食で5杯もおかわりしたのを、ついこの間のことのように思い出しています。

今でも新米の時期には、飯山の道の駅で栄村米を購入し、食べています。今年は長野クラブ設立15年。栄村で例会したいですね。(湯田)

2月ハッピーバースデー なし

สวัสดีปีใหม่ครับ!!

## 2月のデータ

会員数	7名
例会出席者数	3名
ゲスト	0名
ビジター	0名
例会出席率	42.9%
メーカーキャップ	0名
修正出席率	42.9%
ニコニコ献金	実施せず

2月19日例会も自撮り！



会長 (代行) 福島 貴和  
 書記 (代行) 倉石 美津子  
 会計 堀内 雅俊  
 連絡先 森本 俊子(庶務)  
 tokoton921@gmail.com

## 2月例会 報告

森本俊子

TOFの月ながら、長野クラブはこのところ食事は抜かないで、その分献金しようよという合言葉で二月の例会を迎えています。今月は、次期のクラブ役員の相談と、福島さんが今話題の詐欺にひっかかりそうになった体験談を語ってくれました。

詐欺事件の顛末については、当事者の福島さんが「ぜひみんなに知らせてね」とおっしゃったので、ここにも記す事にします。電気を止めるとか電話を止めるとか、訳の分からない電話が続いたと思ったら、「福島さん、あなたは事件に巻き込まれている」という趣旨の電話がかかるようになり、やがて、警察官を名乗る電話がかかり、とうとう銀行の通帳番号まで言うてしまう羽目になり、その時点で「おや、これって詐欺の手口では？」と気づいて、あわてて銀行にその旨通報したというものでした。最近回覧板で回ってくる「気を付けて！詐欺ですよ」という手口そのままです。結局未遂に終わったとは思いますが、例会の時点ではまだ警察にも通報してもなく、福島さんとしては例会のことも忘れてしまうほどに電話恐怖症に陥っているとのことでした。三月例会にはその後の顛末もうかがえるでしょうし、いつの間にやら行っていらした「エジプト旅行記」を報告してくださるとのことでした。

また、6月の東日本区大会は栃木の宇都宮で開かれるので、みんなで行こうね、と話しました。そして、来期、長野クラブは15周年を迎えるので、記念例会を栄村でやったらどうか？などと、話が弾みました。

## バングラデシュでの医療協力ボランティアに行ってきました（3）

湯田勝彦

それでは予告通り、ジョイラムクラ・キリスト教病院での滞在期間3日間のうち、2日間の医療協力活動を終えて、最後の1日を使った「活動」の話です。

その「活動」とは、ガロ・バプテスト・コンベンション（ジョイラムクラ・キリスト教病院の母体のミッション団体）が展開している「ジョイラムクラ・ヘルス・プロジェクト」（以下、JHP）の行っている様々なアウトリーチプログラム（出張事業）、特に「地域開発プログラム」の実際の活動現場を訪問、見学することです。実は、ジョイラムクラ・キリスト教病院の運営も、JHPが行っているプログラムのひとつです。JHPのプログラムは5つ（病院、看護師助産師専門学校、プライマリーヘルスケア、マイクロファイナンス、住民参加型地域開発）あり、今回はそのうちのひとつ、「住民参加型地域開発プログラム」（以下、PCDP）の現場の農村を訪問しました。

病院から車で約1時間半、到着したのは、病院のあるマイメンシン県の西隣、シェルプール県の北部、ジェナイガティ郡の農村、ガズニ村。住民は主に少数民族・コーチ族（ヒンズー教）の地域ですが、ガロ族（キリスト教）、ベンガル族（イスラム教）の住民もいます。村の皆さんは、民族、宗教の違いを尊重しつつ、協力して生活しています。立地としてはジョイラムクラ村と同じく、インド・アッサム地方との国境地帯です。

ここでは、PCDPの支援を受けて、村人がいくつかの小さなコミュニティ（自治会）を形成し、村人達が自律的な活動を行っています。最初に訪問したコミュニティは「売店」を運営しています。コンビニのように、生活必需品、日用品、野菜や果物、飲料や菓子などを販売。商品の選定、仕入れから販売まで、村の男性達が役割を分担し、地域経済開発の一翼を担っていました。次に訪問したのは村の女性達のコミュニティです。PCDPのマイクロクレジット支援を受けながら、主体的に牧畜、農業、プライマリーヘルスケア（健康管理・保健衛生啓発活動）などの活動に、生き生きと取り組んでいる様子が伺えました。このような、地道な、小さな活動の積み重ねが、コミュニティを活性化させ、リーダーシップを育て、そこに暮らす人々の暮らしを経済的に安定させ、精神的にも豊かにし、身体的にも健康を維持し、大人から次の世代へとつながっていくのだと確信しました。

ジョイラムクラ・キリスト教病院には、家族の経済的な理由で子どもの頃に医療を受けられず、傷病や障害を負ったまま大人になって、家業の農業さえできなくて経済的にさらに困り、来院する人が今も絶えません。私たち医療ボランティアチームはそのような方々を手術・治療することはできませんが、本当に必要なのは、そのような人々の源流である貧しい農村に、PCDPのようなアウトリーチプログラムを展開し、根づかせることなのだ、今回の見学を通して実感することができました。さて、次回は大都会ダッカで活躍されているラーマン医師の話を。



←売店。村の外の社会と関わり、雇用も生んでいる

女性達のコミュニティ、乳牛の牛舎



## 山梨YMCAだより

### 新たな変革と成長の年に

総主事 中田 純子

先月2月26日、いじめ防止を訴える「ピンクシャツデー」のパレードを実施し、チャイルドケアの利用児童約40名が甲府市長、甲府市教育長へ表敬訪問を行いました。ピンク色のシャツや手作り小物を身に着けた子どもたちは、自分たちで考えたテーマである「たいせつなじぶん・たいせつなあなた」と共に、いじめのない社会を願うメッセージを発信しました。ワイズメンズクラブの方々のご参加もあり、とても心強く、こどもの声が少しずつ波及していることに感謝いたします。また、当日の活動の様子は、UTY(テレビ山梨)の番組「すごろく」で紹介されました。運動体であるYMCAの活動が多くの方に周知されることは、こどもの声が届く第一歩であると考え、喜ばしいことであったと思います。

また、3月にはフリースクール「わいわいクラブ」がいよいよ開所いたします。「学校に行きづらいな…」と感じている子どもたちの声に耳を傾け、第3の居場所として、地域の課題とニーズに responding していこうと思います。これは単なる不登校支援にとどまらず、大きな社会課題があると考え、取り組みたいと考えております。

子どもたちは、大切な命を与えられ、この世に生まれてきたひとりひとりです。人間が誕生し最初に泣くことから始まり、全てにおいて初めての「できた」を重ね、共に喜びの時ははずです。この喜びこそが子育てそのもののなのです。

山梨YMCAには、心と体の体験活動を育む場所があれ、心と体の両面にわたる豊かな体験活動の提供が可能です。山梨の豊かな自然「銀河鉄道の森」の中で、挑戦と達成感を味わう「自然体験」、地域活動やボランティアを通じて、他者への思いやりを育む「社会貢献活動」、音楽や芸術を通じて、創造性と自己表現力を高める「芸術体験」、乳幼児や高齢者との交流を通じて、コミュニケーション能力と共感性を養う「多世代交流」。これらの体験の中には、子どもたちの心に深く刻まれ、感動、湧き上がる喜び、大声で叫びたいくなるあの瞬間の気持ちを体験できる時こそ彼らの大きな糧となるのです。ここには、将来の糧となる場所が多くあります。また、ここ山梨YMCAは、0歳から一生涯まで幅広い世代をつなぐ環境を有しています。この強みを活かし、フリースクールの子どもたちに多様な交流と体験の機会を提供します。保育園、学童保育や放課後等デイサービス、高齢者との連携により、子どもたちは様々な年代の人々と関わり、社会性を育みながら、自分の居場所と将来の可能性を見出すことができるでしょう。

不登校は大人が作り上げた言葉であって、大事なことは、ここに隠された子どもたちからのメッセージです。山梨YMCAフリースクールは、その声に耳を傾け、一人ひとりの子どもが自分らしく成長できる居場所を提供します。心と体の豊かな体験を通じて、子どもたちが自信を持ち、輝かしい未来を切り拓く力を育んでいけることを目指します。

## ★リレーエッセイ☆

一回休み！

次のリレーエッセイは福島さんです。原稿よろしくお願ひいたします。



その代わりに最近見つけた珍しいもの。

## 第28回東日本区大会(宇都宮)

登録が始まりました！

みんなで行きましょう！

第28回 ワイズメンズ国際協会東日本区大会  
宇都宮大会 2025年6月7日(土)  
於: ライトキューブ宇都宮(JR宇都宮駅直結)  
大会テーマ  
ユース・エンパワーメントの実現  
Y's×SDGs Youth Action

大会プログラム(概略)	
6月6日(金)	
08:00	理事幹事集まりゴルフ大会(ザンビズリゾートクラブ)
19:00	前夜祭
6月7日(土)	
10:00	代議員会(メネット-担当主事-ユース 同時開催)
12:00	入場開始
12:30	プレセレモニー(フィンランディア演奏会編付)
13:00	開会式
13:45	東日本区アワード-I
14:25	東日本区アワード-II
15:00	ユースアクション発表
15:35	理事役員引継式
16:40	特別プログラム 立川靖の講師 落語会
18:30	晚餐会(餃子600人前・高級生煎焼売食品など)
20:00	閉会
20:15	フェロ-シッパ
6月8日(日)	
10:00	日曜礼拝
11:00	エクスカーション2コース宇都宮駅出発
17:00	宇都宮駅到着予定

最終報

登録料 メン/メネット:18,000円 ユース:8,000円  
前夜祭 7,000円 フェロ-シッパ 5,000円

## 主な記念例会、行事などの予定

4/16(水) 18:30~20:30 4月例会(於: レストランやま)

6/7(土) 第28回東日本区大会(於: 宇都宮)

※登録(参加申し込み)が始まりました。クラブでまとめて登録して、ぜひ皆で行きましょう！

6/14(土) 第28回西日本区大会(於: 神戸)

8/1(金)~3(日) 第31回アジア太平洋地域大会(於: 熊本) ※日本で開催される国際大会。参加可能ならぜひ！

8/20(木) 東日本区オリジナルフォトカレンダーの写真募集締切日 ※素敵な写真を撮影された方はぜひ応募を。

## 編集後記

キリスト教の暦では3月5日は「レント」(灰の水曜日)と呼ばれ、イエスが四十日間の悪魔の誘惑を受けたと言われる「大斎節(だいさいせつ)」の始まりの日です。イースター(復活日)の4月20日まで、聖書を読み、静かに祈る時間を大切にしたい。(湯田)